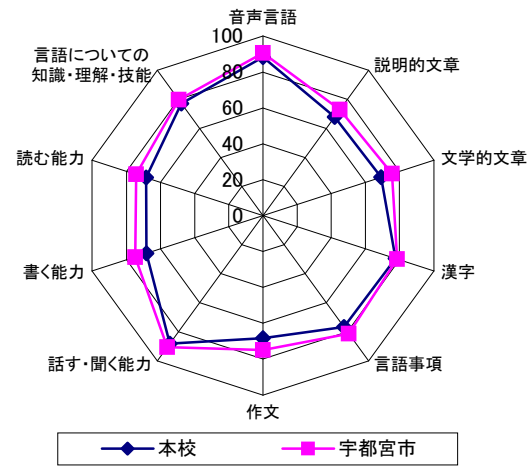


宇都宮市立宝木小学校第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	音声言語	88.2	90.5
	説明的文章	67.9	72.9
	文学的文章	69.2	75.5
	漢字	77.6	78.7
	言語事項	76.6	81.3
	作文	68.2	74.9
観点別	話す・聞く能力	88.2	90.5
	書く能力	68.2	74.9
	読む能力	68.5	74.2
	言語についての知識・理解・技能	77.2	79.7



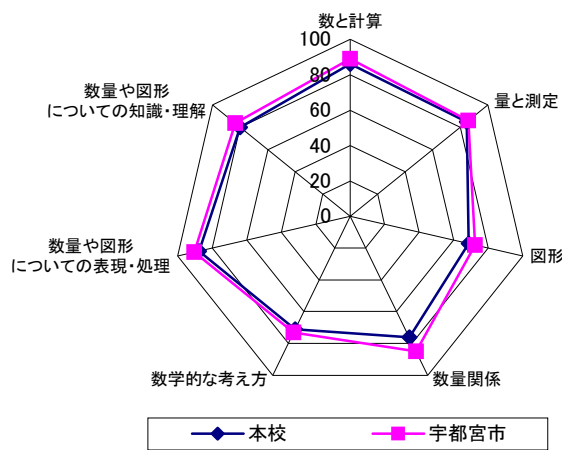
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語 (88.2%)	平均正答率は、市平均より下回っていた。話の内容の聞き取りはできていたが、話題に沿った質問に対して正確に書けていないところがあった。	話の聞き方や話し合いの仕方を、他教科や学校生活のいろいろな場面で指導していく。
説明的文章 (67.9%)	平均正答率は、市平均より下回っていた。文章全体の内容の理解の正答率は市平均を少し上回っていたが、接続語の使い方・文脈に即した内容の理解・段落の要旨を捉えることの正答率が低かった。	文脈に即した内容の理解や段落の要旨のまとめでは、大切な語句や文章表現を押さえながら考えるように指導していく。接続語の使い方については、文中で接続語の使われ方を指導していく。
文学的文章 (69.2%)	平均正答率は、市平均より下回っていた。特に、登場人物の様子の理解や文脈に即した内容の理解の正答率が低かった。	登場人物の様子の理解や文脈に即した内容の理解では、登場人物の様子や気持ちのわかる語句や文章表現を押さえながら指導していく。今後も読書活動を推進していき、文章表現に親しませる。
漢字 (77.6%)	漢字の読みはできていた。しかし、漢字の書きの正答率は、低かった。3年生で習った漢字の正答率は、市の平均を上回っていたが、2年生で習った漢字の正答は、市平均より下回っていた。	漢字スキルを活用し、筆順や形、読みや熟語等を練習させていく。また、ノートを書いたり、文章を書いたりする際は、習った漢字は使うように指導していく。
言語事項 (76.6%)	活用のある単語・漢字の部首・常体と敬体はできていたが、ローマ字の読み方や国語辞典の使い方についての正答率は、市平均より下回っていた。	文章の読み取り時にも国語辞典を使って語句の意味調べをし、辞典を使う習慣をつけさせる。ローマ字の読み・書きについては、授業でさらに練習をさせていく。
作文 (68.2%)	手紙を書く問題の正答率は、市平均より下回っていた。手紙に必要なことを入れることや呼びかける言葉を入れて書く正答率が低かった。	お礼の手紙を書く機会は何度かあったが、形式に沿った手紙を書く機会は少なかった。相手や目的をはっきりさせた手紙を書く機会を設け、手紙に必要なことを入れることや呼びかける言葉を入れて書く指導をしていく。

宇都宮市立宝木小学校第3学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	数と計算	86.0	89.0
	量と測定	84.6	85.9
	図形	68.7	72.3
	数量関係	76.2	84.9
観点別	数学的な考え方	71.0	73.1
	数量や図形についての表現・処理	87.6	90.4
	数量や図形についての知識・理解	80.0	83.6



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算 (86.0%)	・平均正答率は、市平均を下回っている。たし算やひき算の筆算は、市平均とほぼ同じである。分数や小数のたし算やひき算については、市平均を下回っており、計算のしかたを確認する必要がある。大きな数では、市平均と同様だが、正答率は約64%であった。	・分数の計算のしかたを確認したり、小数の繰り上がりや繰り下がりのあるたし算やひき算の反復練習で、習熟を図る。大きな数については、十進位取りを理解させ、復習させる。
量と測定 (84.6%)	・平均正答率は、市平均を下回っている。時刻や時間については市平均を上回ったが、道のりやかさについては下回っており、かさの単位の判断を正しくできた児童は、学年の3分の2程度だった。	・かさについては、かさと単位が一致するような具体的なかさを示しながら復習させる。また、道のりと距離の違いを確認させて、練習問題に取り組ませる。
図形 (68.7%)	・平均正答率は、他の領域より低い。二等辺三角形の名前を正しく書けた児童は市平均を下回り、学年の3分の2程度だった。円の直径や半径についての問題では、市平均を上回っている。球の直径や半径についての問題では、市平均と同様だが、正答率は42%であった。	・いろいろな三角形や円、球の形と名前を一致して覚えるよう、しっかり復習させる。また、コンパスや定規を使って、描いたり切ったりする作業や、操作活動の時間を十分取り入れるようにする。そのうえで、練習問題に取り組ませる。
数量関係 (76.2%)	・市平均を下回っている。棒グラフをよむことの正答率はほぼ80%だが、書く問題の正答率は約72%、無記入が17%ある。	・棒グラフを読み取ったり、描いたりする作業を多く取り入れ、一目盛りが表す量をつかませるようにする。